



# Saitama Rugby School Magazine

2015年3月号

## Head Line

- ★スクール指導のヒント
- ★鈴木スクール部会委員長の挨拶
- ★選手色紙プレゼント

2015年3月15日 No.47

発行責任者 鈴木正則

編集 スクール部会広報

好評連載中

## .....スクール指導のヒント

グラウンドレベルとは違ったいろんな視点からラグビースクールの将来像や指導の在り方を考えてみようスタートした本連載も、今回で最終回となりました。

先月2月号では、スポーツにおける「体罰・暴力問題」を取り上げました。その中で指導者自身や子ども・保護者・組織が一体となって意識の向上に努めていく必要性に言及しましたところ2月13日の東京新聞を読んでいて「目からうろこ」の全く違うアプローチがあることを知りました。

その記事は『学校での運動部の指導のあり方が議論される中、子どもたちの声を指導者に届けようと、「コジカラ・ニッポン」というNPO法人が都内の中学校と協力して10個の提言をまとめ、全国の学校やスポーツクラブなどにも、それぞれの「10カ条」をつくるよう呼びかける。』という内容でした。

## ◇子どもの力を社会に活かす視点

同法人は、子どもの力を社会に活かす事業をされており「チェンジ・スポーツ・バイ・キッズ」というプロジェクトを企画。新たな試みとして子どもたちとスポーツ指導について考えるために中学校の10の運動部のメンバー約40人に放課後の教室に集ってもらいました。

冒頭では、「指導者の思いを知ろう」をテーマに、サッカー日本代表やテニスの錦織選手らの言葉を紹介。厳しい指導は選手の力を引き出し、心を育てる効果もあるとの前提で「指導者も試行錯誤し、

家族もいる一人の人間。それを分かった上で、自分がされてうれしかったこと、嫌だったことを挙げてみよう。」と呼びかけ、ワークショップを開催したそうです。

生徒達はグループに分かれ「期待って言う言葉が出るとうれしい」と盛り上がったり、「練習だから新しいやり方に挑戦したいのに文句を言われた」と憤ったり。指導者への要求には「厳しく、楽しく、疲れる練習をしたい」「自分で立ち直る邪魔をしないで」と、前向きな意見を出した生徒も大勢いたとのことでした。

後日、議論を深めた結果を基に、同法人のメンバーが『指導者に守ってほしい10のこと』をまとめたものが下記の枠線の中の内容です。

## ◇子どもの視点で10カ条

...理不尽なスポーツ指導なくそう

### 『指導者に守ってほしい10のこと』

1. 少なくとも頑張るから「何のための練習か」の説明を
2. 「上達したね!」の一言でつらい練習も乗り越えられる
3. もっと良い練習をするため意見や提案を聞いてください
4. 「何でできない」と怒鳴る前に具体的なアドバイスを
5. スポーツは楽しむもの。私達はあなたの操り人形ではない
6. 自分の「お気に入りの子」以外を無視するのはやめて
7. 何度も同じことを長時間かけて説教しないで
8. 一つのミスで「なめとんのか」僕はどうすればいいの?
9. 練習前に恋人に振られても、私達には関係ない
10. 一人一人と向き合ってくれた貴方に私達はついていく

この試みは、教師や指導者が無意識のうちに上意下達的に物事を考えて生徒にアプローチする『大人→子ども』方式が多い中で、逆転の発想から課題を解決する視点『子ども→大人』方式を示してくれました。

社会では一方的な価値観の押しつけでは何事も上手くいきません。相手の立場や価値観を理解することの大切さは、連載1・2回目で取り上げた

経営学者ドラッカーのマーケティングの基本「顧客の創造」にも通じます。売り手・作り手発想ではなく、顧客発想で指導者の役割をリ・マーケティングすることに大きな示唆を与えてくれています。

## ◇指導者としての新たなチャレンジ

1月号では「教えないで教える」→「教えないで教わる」というレジェンド指導者のお話を紹介しました。子どもの側に立ってみると、その指導者の下では、スポーツが面白く楽しくなり、いつの間にか主体的に練習に取り組み、能力を引き出してもらえたという実感が得られる、まさに神技に近い指導者像にも思えてきます。

今回でこの連載は最終回となりました。指導者の皆様におかれましては、いろんなご苦勞や悩みも多いことと思います。そこから指導者としての新たなチャレンジが始まります。指導者同士の情報交換や学びの場を持ちつつ、子供たちと一緒に楽しくラグビーに触れながら、子供たちひとり一人の将来を見据え、次世代を担う彼らの可能性をひろげて行きましょう。何かの折にご指導のヒントとなれば幸いです。

ありがとうございました。

※最後になりましたが、本連載を脱稿までご担当頂いた広報委員会の皆さまにこの場を借りて感謝を申し上げます。

クラブマネージャー

ラグビーフットボール指導員公認

ふくじゅ草 井尻靖彦

## スクールマガジン最終回を迎えて

日頃よりスクールマガジンをご愛読戴きまして誠にありがとうございます。

ラグビーの普及発展を目指し毎月発行して参りましたがこのスクールマガジンも今月号をもちまして終了させていただきます。



2011年4月より4年間ラグビースクールの情報発信の場として少しでもお役に立つことができましたなら幸に存じます。

先日発表されました2019年ワールドカップ(WC)の開催会場に熊谷ラグビー場が選ばれました。今後はWCを盛り上げていくために『埼玉ラグビーマガジン』として再出発することになり、その中でスクールの情報も引き続き発信して参ります。

これまでご愛読戴きました皆様、そしてご寄稿頂きました多くの関係者の方々に紙面をお借りしまして心より御礼申し上げます。最後にスクール部会広報委員の皆さま4年間本当にご苦勞様でした。

今後も2019年WCが成功しますようご協力ご支援の程よろしくお願い致します。

埼玉ラグビースクールマガジン  
発行責任者 鈴木正則

## Present

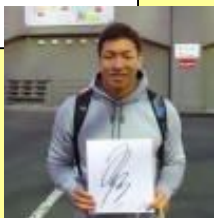
### ■応募方法

埼玉県ラグビーフットボール協会のお問い合わせメール(info@rugby-saitama.jp)で申込む

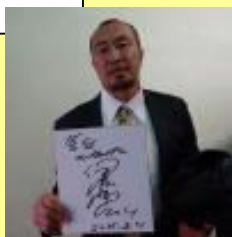
subject「サイン入り色紙」希望と記載

本文に①氏名②送付先住所③年齢を記載④希望の番号  
当選発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

③ パナソニックワイルドナイツ  
霜村誠一選手



④ 釜石シーウェイブス  
伊藤剛臣選手



① リコーブラックラムズ 森谷和博さん  
帝京大学 森谷圭介選手  
キャノンイーグルス 森谷直貴選手

